宇都宮市のまちづくり情報誌

まちぴあ

身近なつながりに出会おう

No.38
2021.7
夏号

TAKE FREE
無料

UTSUNOMIYA MACHIPIA

特集 多文化共生のまちづくり。

NPO×ダイバーシティ
外国人支援の現場から

ほっとねっと 特定非営利活動法人 ぱんだのしっぽ

まちぴあ登録団体紹介 株式会社 サニクリーン宇都宮／現代文学クラブ

まちづくりリレーコラム 外国人が支える日本の食料自給

多文化共生のまちづくり。

親子で参加できるタイ料理の体験教室。食を通じて異文化への理解が深まる

NPO×ダイバーシティ
外国人支援の現場から

いま持続可能な社会づくりが求められています。日本を含む多くの先進国では少子高齢化が問題となっていますが、地球規模では、人口は急激に増加しているのです。限られた資源を奪い合うのではなく、早急に各国が協調して、パートナーシップを築いていく必要があります。では私たちにもできることはないのか？ 身近な取り組みに着目してみました。

国籍や言語といった垣根を越えて、楽しい時間や空間を分かち合う

「多様性」というキーワードが、ビジネスや社会システムにおいても重要度を増しています。

とくに雇用や人事などビジネス分野において、人種、性別、出身地、宗教、年齢などの違いによる差別に対して、よりきびしい目が向けられるようになりました。むしろ、競争力を高める人事戦略として、多様な人材を積極的に採用する（ダイバーシティ経営）方向へと変わりつつあります。

これは、まちづくりにも言えることで、地方創生の取り組みには、市民、民間企業、NPOなど多様なステークホルダーの参画が重要となり、多様性を受け入れる社会の実現が求められているからです。

今回取材したデックタイグループは、宇都宮市内を中心に、地域に住む在日タイ人のさまざまなサポートを行っているNPO法人です。

ホットラインと呼ばれる二十四時間体制での無料相談窓口の運営をはじめ、語学教室（タイ語、日本語）の開催。タイ王国が主催する移動大使館のサポート。病院での医療通訳。タイの文化を伝える料理教室や交流イベントの開催など、グループの活動は多岐にわたっています。

相談内容でとくに多いのは、結婚や離婚、出産、死亡といった戸籍の変更にともなう事務手続き。これらは、日本国内だけでなく、タイ王国での手続きまで必要となるため、うまく言葉が通じない環境では、自分たちだけで完結させるにはハードルが高いのです。緊急性がともなうことも多く、行政サービスだけでまかなうというのも現実的ではありません。

そういった人々の困りごとを見て見ぬふりができず、少しでも力になれたらと、グループを立ち上げたのが2006年のこと。それから地道に活動を続け、その六年後にはNPO法人を設立しました。

「私たちが目指すのは、国籍、言語、文化の違いを互いに尊重する、多文化共生社会の実現です。この活動を通して、日本とタイにおける友好の架け橋になりたい」と理事長のラタナポンさんは話します。

このように行政の手が行き届かないところまで、きめ細かくサポートできるのがNPOの強みです。異国の地に暮らす外国人というマイノリティの立場を経験したラタナポンさんだからこそ、社会的

さまざまなイベントにブース出展。売上は運営費にも充てられ、大切な財源のひとつだが、コロナ禍でイベントがほぼ全滅に

profile

ラタナポン・タナノンさん

NPO法人デックタイグループ理事長。民間通訳者や日本語指導講師として活躍する傍ら、多文化共生プラン推進委員を自治体から委嘱されるなど、まちづくりに関わる役職も多数歴任。タイ王国ラムパーン県出身。宇都宮市在住

弱者の気持ちに寄り添うような支援が可能なのかもしれません。しかし、彼女のように「想い」からスタートする活動において、ボランティアや自己犠牲の精神だけでは続かないケースも多く見られます。幸い、デックタイグループでは、信頼できる仲間や協力者に恵まれたことで、少しずつ活動の幅を広げられたそうです。

ボランティアスタッフとして団体運営に携わる加藤明さんは、もともとはタイにロングステイしたいと思い、タイ語教室に通い始めました。

「イベントにも参加しながら、報告書作成などのお手伝いをしていたら、事務局を任されるようになりました。日本にいながら交流を深められるので、いまでは活動は楽しみです。まちぴあ内の事務所は、第二の居場所になっています」と加藤さんは笑顔をのぞかせます。

外国人に限った話ではなく、災害時など緊急事態に直面すると、どうすれば社会的マイノリティを孤立させずにすむかという議論が持ち上がります。今回の新型コロナ感染症がまさにそうでした。

勤めていた飲食店を解雇されて生活に困窮する人、雇用保険に加入しておらず失業給付を受け取れない人、帰国したくても出入国が規制されて、にっちもさっちもいかない人など、本当に困っている人がたくさんいます。国や自治体もさまざまな支援策を講じていますが、言語という壁もあって、必要な人に必要な情報を届けることが簡単ではないようです。

デックタイグループでは、バーベキューやクリスマス会といった交流会を定期的に開催し、みんなに声を掛けるなど助け合いの精神もあって、普段から孤立させない関係性を築いてきました。そのおかげか、寄せられた相談にも、ある程度対応できたと話します。

とは言え、必ずしも万全の支援ができたわけでもないようです。一法人にできる支援には限界があります。継続して行うにも、まだまだ資金や人材が足りていないのが現状です。

持続可能なまちづくり……そのための一歩。

多文化共生社会の実現へ向けて、私たちにできることはないか？　自分事として考えるよい機会かもしれません。

ナイフ１本でつくり出す芸術。カービングは世界的にも有名なタイの伝統文化のひとつ

事務局スタッフの加藤さん。もはやグループに欠かせない存在となっている

デックタイグループでは例年、移動大使館の運営をサポートしている

宇都宮市 国籍別 外国人人口	平成 29 年 (2017)		平成 30 年 (2018)		令和元年 (2019)	
	人口	(%)	人口	(%)	人口	(%)
中　国	2,452	26.9	2,564	26.9	2,648	27.6
ベトナム	1,227	13.4	1,461	15.3	1,482	15.5
韓　国	963	10.6	960	10.1	961	10.0
タ　イ	683	7.5	676	7.1	699	7.3
フィリピン	759	8.3	745	7.8	747	7.8
台　湾	538	5.9	525	5.5	525	5.5
ブラジル	455	5.0	437	4.6	419	4.4
ネパール	436	4.8	445	4.7	359	3.7
ペルー	211	2.3	205	2.2	214	2.2
米　国	186	2.0	217	2.3	212	2.2
スリランカ	258	2.8	305	3.2	260	2.7
インド	200	2.2	195	2.0	225	2.3
インドネシア	139	1.5	122	1.3	123	1.3
その他	584	6.4	673	7.1	714	7.4
外国人総数	9,127人		9,530人		9,588人	
市の総人口	522,938人		522,688人		521,754人	
外国人割合	1.7 %		1.8 %		1.8 %	

資料：市民課（住民基本台帳）

バーベキューは夏の恒例イベント。できるだけ多くの人に声をかけて、交流の場を提供している

NPO法人
デックタイグループ
〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5-9-7
まちづくりセンター内
事務局：090-7720-7575
E-Mail：dekthaigroupnpo@yahoo.co.jp
https://dtg2.jimdo.com

まちづくり活動仲間が目指すもの

ほっとねっと

No. 38

「困った家庭の明日を笑顔に」

新型コロナ感染の影響が続くことで、よりクローズアップされている貧困問題。食品や生活用品の支援が広がる一方で、困った家庭と個別につながることで社会復帰をサポートする団体が活躍しています。孤立を防ぐため、人と人とのつながりを大切にする取り組みについて取材しました。

寄付された食品に心も込めて宅配

「ぱんだのはじまり」

パンダのしっぽって何色でしょうか？実は白なんです。

見つけにくいということは、貧困問題とよく似ているそうです。周りに知られたくないという悩みが貧困問題には大きな壁として存在しているそうです。「ぱんだのしっぽ」は、この悩みに寄り添えるように、生活物資を届けるという方法で、問題解決に取り組むＮＰＯ法人です。

ひとり親家庭などの世帯では、日々の食事を満足に用意できない場合も多く、県内でもフードバンクや子ども食堂と呼ばれる団体が立ち上がっています。当団体では、さらに支援の根を深くしたいと、ＳＯＳを発信したくてもできないという人たちを、もっと身近で対応するため、令和２年10月に法人としての活動を始めました。

「見えづらいに寄り添う」

貧困、困窮と言葉は広がりましたが、経済的な理由だけでなく、ＤＶや暴力、病気などさまざまな理由から発生するこの問題は、その悩みやきっかけも単純ではありません。

プライバシーの問題や、精神的、肉体的な理由から引きこもらざるを得ない状況になってしまうケースもあることから「見えづらい」問題なのです。法人の皆さんは、孤立してしまった人に、自分たちから近づくことで、家庭環境や状態を把握。それぞれの家庭に適した支援制度の申請や生活支援を、食品提供とセットで届けています。

相談者との信頼関係を大切にしながら、安心感を育み、孤立状態にあったとしても、地域や行政との橋渡しをすることが、ぱんだのしっぽの皆さんの寄り添い活動なのです。

「発信することの大切さ」

貧困問題の解決には、正しい情報の伝達がとても重要になります。

当事者は、自分の状態を落ち着いて伝えることが必要ですし、支援側は、当事者が困っていることをより分かりやすく、他の協力先へと伝達することが求められます。必要な情報を整理して、正確に発信していかないと支援の輪を広げていくことも、さらにその先の公共機関や地域との連携が、困難になってしまうからです。

正確な情報を発信することで周りとのつながりを維持し、孤立の解消につなげる。法人では、協力してくれる仲間を募り、実際に活動してもらいながら、研修などを通じて発信する大切さを伝えています。こうした取り組みの積み重ねが、貧困問題の解消へと続いていくのだと思いました。

見守りも兼ねた訪問。子どもたちも楽しみ

パンダさんが目印。ボランティア募集中です

特定非営利活動法人 ぱんだのしっぽ

TEL. 090-8565-7830（代表：小川）

ホームページ　LINE

取材後記

貧困問題の解決は、食品や生活用品を援助するだけではなく、困ってしまった方たちが安心して社会に戻れる環境づくりなのだと、今回の取材で学びました。そのための食品支援であり、人と人とのつながりであることを心に止めておきたいと思います。（小倉）

ちょっと気になるコレクション

インバウンドが求めるおもてなし

日本家屋が印象的な宇都宮餃子さつき徳次郎本店。無添加で栃木県産の素材を使うこだわりがあります。ハラール餃子は構想から10年。宇都宮大学ハラール研究会の協力を経て開発しました。

ハラール餃子　310円（要予約）

宇都宮餃子
さつき徳次郎本店
〒321-2116
栃木県宇都宮市
徳次郎町 190−4
TEL. 028-688-0106
URL: http://
satsuki-gyoza.com/
営業時間：11:00 ～ 19:00
定休日：年中無休

通常の豚肉を使った餃子とは異なり、ハラール認定を受けた鶏肉を使用。試行錯誤を重ね、お店の餃子の味を再現させました。ハラールとは、イスラム教徒の方が許されたものという意味。食材や調味料だけではなく、鍋や冷蔵庫も専用に設け、店内に礼拝場まで整えています。

「訪日外国人の視点に立ち、心のこもった本物のおもてなしを」と店長の山下さん。自分たちの取組みをきっかけに、県内各所で観光客へのおもてなしが増えてもらいたいと話してくれました。

各メディアにも取り上げられるハラール餃子

MACHI DUKURI TOPICS

「まちづくりって何？」
そんなアナタにディープな地元ネタから、今が旬のレア情報まで、まちぴあから“まちパワー”を発信します!!

とっておきの関心空間

宇都宮の芸術文化発信の本丸

支配人で演出家の片岡友美子さん、副支配人で舞台役者の鵜飼雅子さんらを中心に、宇都宮で芝居のできる会場が少ないことを憂いた人々による「小劇場」構想。

内装は、演劇で培った技術でメンバーたち自らDIYし、地域の舞台芸術コミュニティの拠点として、2018年10月に「アトリエほんまる」が完成。およそ100名弱の観客を収容することができます。演劇だけでなく、映画上映や楽器の練習など幅広く活用されています。

コロナ禍の中でも感染予防対策を徹底し、制作・発表の場を提供し続けてきました。4月には、ほんまる発の宇都宮シニア劇団の旗揚げ公演も開催されるなど、年齢・ジャンルを問わず夢追い人のチャレンジを手助けしています。

アトリエほんまる

〒320-0817 栃木県宇都宮市本丸町 1-39
E-mail: atelierhonmaru@gmail.com
URL: https://metamix.com/honmaru/
Facebook: https://www.facebook.com
/atelierhonmaru/

ほんまるで約１年の稽古を積んだシニア劇団「スターライト」。晴れて夢の舞台へ

うつのみや発の話題人（ワダイビト）

子どもたちに希望の花火を

今年のうつのみや花火大会のテーマは「想い」。

全国でもめずらしく、地元市民がボランティアで開催運営するこの花火大会に、澤村さんは約5年前から携わっています。

夏の風物詩として、伝統の灯を絶やさぬよう守り続けてきた先輩方の背中を見て、その想いを次の世代へと引き継ぎたい。それが街の誇りにつながると、会長という大役を引き受けたそうです。

コロナ禍で多くのイベントや伝統行事が中止となるなか、入場制限を設けるなど感染対策を徹底して、8月14日の開催を目指して現在準備を進めています。

「花火と一緒に夢や希望を届けたい」と強い決意をのぞかせる澤村さん。

宇都宮の夜空に大輪の花を咲かせようと、今日もみんなと汗を流します。

昨年のサプライズ花火。今年はみんなで見られるといいですね

澤村（さわむら）　彬男（あきお）さん

（特非）うつのみや百年花火理事長、1982年生まれ、宇都宮市在住
好きな動物：柴犬
趣味：サッカー観戦、文房具集め

いきいき生涯学習の実践

小林先生を囲んでの集合写真

「現代文学クラブ」は宇都宮市立東公民館主催の生涯学習講座「現代文学教室」の受講生たちが、この講座が修了した後も、現代文学の世界を学び、理解を深める場を継続したいと1987年（昭和62年）に設立した団体です。現在は発足当時からのメンバー女性8名で活動しています。

主な活動は月一回、事前に選定した短編小説について勉強会を開催しています。講師の小林幸夫先生は、現代文学教室からのお付き合いだそうで、勉強会の内容や教材は大学の講義と同じです。

先生が作者の紹介（人物像や人間関係）や、書かれた時代背景、登場人物の精神状態、設定された場所や環境などについて詳しく解説してくれます。

「作品の新たな解釈や観点を発見することができ、より深く理解することができる。そのおかげで、いろいろな作品に触れてみたいという意欲に駆られる」とメンバーの方は話してくれました。

毎回2時間の勉強会があっと言う間に終わってしまう程、濃密な時間を過ごしています。長く続けられる生涯学習として、とても有意義な活動だと感じました。老若男女を問わず会員を募集していますので、現代文学に興味のある方は是非お問合せしてみてください。

【団 体 名】 **現代文学クラブ**

【代 表 者】 中山 享子（なかやま きょうこ）TEL. 028-635-4175
【連 絡 先】 宇都宮まちづくりセンター（まちぴあ）TEL. 028-661-2778
【活動場所】 宇都宮まちづくりセンター
【活動日時】 毎月1回（第3土曜日）15時～19時

掃除の楽しさ伝えたい

サニクリーン宇都宮が行う「おそうじ教室」は、主に小学生や幼稚園、保育園児などの子どもを対象とした活動です。ゲーム形式での掃除の実践や紙芝居による掃除の大切さを伝える授業など、子どもたちに掃除を楽しく学べるようさまざまな工夫が施されています。

教室を始めたきっかけは、時代とともに掃除道具が変化し、掃除用具の正しい使い方ができないという、問題意識を持つようになったこと。そこから正しい掃除用具の使い方の浸透、日本の文化としての伝承をしたいと考え、この教室を始めたとのことです。

企業の社会貢献という意味合いもあり、依頼側の先生の意見などを取り入れたオリジナルの内容で、プロが運営、指導していることも大きな特徴です。

「子どもたちに掃除を嫌いにならないでほしい、そして掃除の楽しさを知ってほしい」と話す担当の鍋谷薫さん。

これからは小、中学校に注力すると共に、大人向けのおそうじ教室も開催していきたいとのことでした。

もしこの記事を読んで興味を持った学校、自治会の方々がいましたら下記の問い合わせ先までよろしくお願いします。

おそうじ教室の様子

【団 体 名】 **株式会社 サニクリーン宇都宮**

【活動場所】 県内幼稚園、保育園、各小学校ほか
【担 当 者】 鍋谷 薫（なべたに かおる）
【問い合せ】 TEL. 028-614-3290　https://www.sk-u.co.jp/

まちづくりリレーコラム vol. 9

坂本 文子 氏

外国人が支える日本の食料自給

国産でまかなわれる米や肉など、令和元年度の日本の食料自給率は、カロリーベースで38％と言われています。つまり、私たちが普段食べているものの約6割は、輸入に頼っているということになります。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大以降、スーパーでなかなか商品が補充されない棚を見かけるようになりました。よく見ると、輸入商品の陳列棚であることが多いように思います。棚が空になっている本当の要因は分かりませんが、遠い異国の地で、その商品をつくっている方々のお仕事やお体を案じると同時に、輸入食料品の供給が止まることへの危機感をより身近に感じる出来事でした。

日本は令和12年度までに食糧自給率を45％まで引き上げる目標を立てており、農業産出額が全国9位（令和元年現在）の栃木県にとっても、その目標は無視できない話なのではないかとも思っています。

一方で、「コロナで実習生来ない、農水産業に労働力不足」（オンライン日本経済新聞2020・3・26）といった見出しに象徴される外国人労働者不足の問題が全国で顕著になっています。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、技能実習生として日本で働く外国人の出入国が厳しく制限されたためです。農林水産省もこの事態に対し、「農業労働力確保緊急支援事業」として、予定していた技能実習生が受け入れられないことなどの人手不足を要件に助成金を出しています。しかし、報道によると、収穫のための人手が見込めず、作付けそのものを減らす農家も相当数出てきているようです。これでは、食料自給率アップどころではありません。

食品加工や食品製造の分野においても技能実習生の出入国が厳しく制限されたことによる影響は少なくありません。栃木県内にある外国人技能実習生の監理団体を対象に、私が実施したした調査（配布31、有効回答数12、ただし派遣先は県外を含む）からは、令和2年度に帰国できなくなった技能実習生は最大145名、入国できなくなった技能実習生は最大202名、その内、食品製造関係で帰国できなくなった者は最大18名、入国できなくなった者は最大32名いたことが確認されました。明らかになったのは実態のごく一部ですが、少なくとも、日本人や外国人に関わらず、予定していた30名程度の人材をすぐに確保することの難しさは想像に難くありません。

このように日本人が自ら食料をまかなうことを示す食料自給率は、外国からの輸入品に頼っているだけでなく、国内の外国人（労働者）によって支えられています。長期化するコロナ禍は、私たちの暮らしの根幹を支える食についても見つめ直す機会になりそうです。

坂本（さかもと） 文子（ふみこ） プロフィール

宇都宮大学地域創生推進機構社会共創促進センター特任助教。次の時代を切り開くための産学官金連携の促進を目的とした地域と大学の“共創”を具体化するコーディネーターとして従事。専門は多文化共生論。国内の国際化活動をライフワークとする

書籍紹介
まちづくりを考えるこの一冊！

芹澤健介 著

「コンビニ外国人」

新潮新書
2018年5月発行

このコーナーでは市民のみなさん、市民活動関係者、行政関係者などからのご意見、ご感想をお待ちしています。紙面上での意見交換へと発展することを期待します。ご意見・ご感想はまちぴあ広報部へ。

まちぴあ書庫から PICK UP!

「LGBTQ」をより深く理解するために。いま知っておくべきダイバーシティの必読書

近年、LGBTQに関するさまざまな取り組みが増えている中、どうしても性的マイノリティであるがゆえに働きづらさを感じている当事者がいます。そして企業もまた、その対策の難しさに直面している現状があります。この本は、そんな日本社会や国民一人一人が、より多様性を理解し、意識を変えて、誰もが生きやすい社会をつくるために書かれた指南書です。

前半は性的マイノリティである筆者自らが、レズビアンを自覚してから何に悩み、どういう生き方をしてきたのか半生を振り返る内容。後半はLGBTQについての基礎知識や企業への施策導入のポイントを、虹色ダイバーシティのコンサルティング実績や調査実績を踏まえながらわかりやすく解説。各有名企業の取り組み事例なども多数紹介しています。巻末には資料として「LGBTQの基礎用語」も収録しているので、調べながら読むことができます。

企業の人事・労務・法務担当者から社会で働くすべての方々にぜひ読んでもらいたい一冊です。

『虹色チェンジメーカー LGBTQ視点が職場と社会を変える』

村本 真紀 著／株式会社小学館
2020年10月発行

まちぴあからのお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止にご協力ください

まちぴあの施設をご利用の際は、十分な感染症防止対策を実施するようお願いします。

- マスク着用や咳エチケットの徹底
- こまめな手洗い、消毒等の実施
- 時間短縮、規模縮小など必要最低限の利用に留める
- 発熱や咳などの風邪症状がある人は参加させない
- 近距離、対面での会話をしない
- 室内は十分な換気
- 館内で飲食は行わない
- 高齢者や基礎疾患のある方など、感染リスクの高い方の参加を控える

まちぴあ施設利用についての情報はホームページ等で告知しますので、最新の情報をご確認頂くようお願いします。

イベント情報

学生ボランティア交流会

団体の想いや活動内容を知る機会を作ることで、学生の経験したことがないボランティア活動や人とつながる機会を提供。今回は新型コロナウイルスの影響を受けて、会場を使わずオンライン開催。協力団体は7団体を予定。交流会に参加した学生には「ボランティア活動証明書」を発行します。

日時 2021年 7月10日(土) 10:00～12:00

対象 高校生・大学生・短大生・専門学校生

会場 今回は会場を使わずにオンラインで開催します

お問合せ 宇都宮市まちづくりセンターまちぴあ

参加費 無料　事前登録が必要です　**定員** 30名

市民活動助成基金 ご協力ありがとうございます

- こども未来課　●木村良久
- みんなでまちづくり課
- みんなでまちづくり課親交会

（敬称略）

市民活動助成基金とは

宇都宮市では、ボランティア活動やNPO活動を活発にし、全市的に広げていくため、これらの活動を市民、企業、行政のみんなで支える仕組みとして「市民活動助成基金」を設置しています。

この基金は、市民の皆さんによる「市民活動を応援する気持ち」である寄附金を積み立てるとともに、宇都宮市が寄附金と同額を支出して、積み立てています。

ボランティア団体やNPO法人の活躍により、宇都宮を活気ある、すてきな街とするため、市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

宇都宮市役所
みんなでまちづくり課　市民活動グループ
TEL.028-632-2886
URL: http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/
※トップページ ▶（分野別で探す）市民協働・コミュニティ ▶ ボランティア・NPO

まちぴあ最新情報にアクセス！ http://www.u-machipia.org

まちぴあ　検索

まちぴあ新規登録団体（2021年4月30日現在　登録団体数177団体）

宇都宮手話通訳者連絡会
手話通訳者としての能力向上を図り、聴覚障害の福祉向上に寄与する

親子教室 motto
発達支援を活用した講座・集会の実施を通して、地域の子育て支援及び福祉の振興に寄与する

JR宇都宮駅東まちづくり21
JR宇都宮駅東地域の魅力あるまちづくりを通じて、県都宇都宮の将来の発展に寄与する

若草子供会育成会
育成会会員が協力し合い、側面から子供会に対して精神的・物質的な援助を行い、子ども達が自主的に活動できるよう、指導育成に寄与する

松の実子供会・育成会
児童の育成助長や会員相互の親睦を図り、子供から寄せられる悩み事や要望に対して、相談・活動の運営に活かし、合同でレクリエーション、研修、奉仕活動等を行う

公益財団法人東日本盲導犬協会
主に東日本地域の視覚障がい者を対象として、視覚障がい者の自立と社会参加を促進するため、盲導犬の育成及び生活訓練等に関する事業を行う

エムズモア
主に子どもを持つ困窮世帯を対象に、年中行事等の写真撮影の機会を提供する活動を通じ、宇都宮市の子育て支援等福祉の振興に寄与する

こそだてひろば　よりみち隊
地域の子育てを応援したい市民が集まる居場所活動を通じて、宇都宮市の児童・母子福祉の振興に寄与

栃木県シルバー大学校中央校同窓会宇都宮東第2支部
会員の健康の維持増進と資質の向上に努めて、会員相互の親睦・交流を深め豊かな生きがいづくりに資するとともに、地域の福祉活動に寄与

NPO団体集団ストーカー組織犯罪撲滅推進連合会
一個人に対して不特定多数の集団が悪評の流布やプライバシー侵害等の嫌がらせを行う集団ストーカーという犯罪について注意喚起や啓蒙活動を行う

宇都宮市まちづくりセンター **まちぴあ**
（指定管理者：認定NPO法人　宇都宮まちづくり市民工房）
〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5丁目9-7
TEL.028-661-2778／028-661-2779
FAX.028-689-2731
E-mail: info@u-machipia.org　URL: http://www.u-machipia.org

開館時間　午前9時から午後9時30分まで（日祝は午後5時まで）
休館日　年末年始（12月29日～翌年1月3日）
臨時休館（施設点検等）
JR宇都宮駅東口から徒歩15分　駐車場28台

まちぴあ情報誌の音訳版もございます。ご希望の方はまちぴあまでご連絡ください。

2021年7月1日発行　編集・発行　認定NPO法人　宇都宮まちづくり市民工房
宇都宮市のまちづくり情報誌「まちぴあ」